

数字と写真で見る >> 日本の小学校

日本全国に約2万校ある小学校。全ての学校で学習指導要領に基づく一定水準以上の教育が保障されている上で、地域性や学校規模を生かした多様な教育活動が展開されている。

数字で見る

学校数は **約2万校**

現在、国公立合わせて2万390校の小学校がある。児童数の減少や市区町村の合併などにより統廃合が進み、学校数は減少傾向だ。

●●● 営業中の郵便局数(簡易郵便局・分室を除く)も約2万局

教員数は **約40万人**

小学校教員数は39万8223人。そのうち約6割が女性教員だ。近年は、定年退職者数が増えているため、若手教員の割合の増加が課題となっている。

●●● 岐阜市、高松市、宮崎市の人口総数とほぼ同じ

児童数は **約699万人**

児童数は、699万3000人と、過去最高だった1958(昭和33)年の1349万2000人から約半減。1学級あたりの児童数は、平均で28.1人だ。

●●● 韓国には約347万人、中国には約1億332万人の児童がいる

注) 対象年齢は、日本・韓国が6~11歳、中国が7~12歳

出典：文部科学省『平成23年度学校基本調査』、郵便局『郵便局数情報』(2011年9月)、総務省『統計でみる市区町村のすがた2011』、文部科学省『教育指標の国際比較 平成23年度版』

写真で見る

授業(教室)

単式学級では、前の黒板を向いて授業を受ける。複式学級では、黒板は前後に二つ。複数の授業が同時に行われる



北海道には音楽専科の先生が少ないため、担任の先生が教室や音楽室で音楽の授業をすることも多い(東札幌小)



廊下と教室を仕切る壁は可動式。開放感があり、他の先生も授業を見に来やすい(給田小)



5年生と6年生の複式学級。先生が片方の学年を教えている時は、もう片方の学年は自分たちで学習を進める(嘉鉄小)

給食

食器や牛乳の形は地域によってさまざま。世界各国の名物を出す給食や、子どもがメニューを考える給食もある



札幌市から全国に広まったスープカレーも給食に登場。この日は、パンかごはんかのセレクト給食(東札幌小)



東京都八丈島産のムロアジを使ったジャンボぎょうざ。地場産を使った献立の一つ(給田小)



奄美大島名物・鶏飯(けいはん)もメニューに加わる。子どもたちが大好きな一品(嘉鉄小)

体育

北の地方の学校は、冬にはスキーやスケートの授業を行う。プールが学校になく、海で水泳の授業を行う学校もある



1月中旬~2月下旬くらいまでスキー学習を行う。校庭には学習のための「スキー山」が作られる(東札幌小)



校舎の屋上に造られたプール。体育の授業だけでなく、地域のスポーツイベントにも開放されている(給田小)



校舎から海まで徒歩1分。校内にプールはなく、水泳の授業は7月まで海で行われる(嘉鉄小)

写真協力：北海道札幌市立東札幌小学校(児童数563人)、東京都世田谷区立給田小学校(児童数827人)、鹿児島県瀬戸内町立嘉鉄小学校(児童数18人)